

第34回 廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時：平成28年7月29日（金） 13：30－15：30

場所：いわき市文化センター 1階 大講義室

2. メンバー

政府：（議長）高木原子力災害現地対策本部（経済産業副大臣）

後藤原子力災害現地対策副本部長

復興庁：白井次長（福島局）

環境省：渡邊水環境課長

国土交通省：小俣河川環境課長

水産庁：竹葉増殖推進部研究指導課長

廃炉・汚染水対策チーム：尾澤事務局長補佐、秦対策官
柿崎企画官、湯本事務局総括

廃炉・汚染水対策現地事務所：生越所長、木野参事官
本田調整官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構：松永所長

東京電力：新妻福島復興本社副代表、増田プレジデント
有馬バイスプレジデント

石川廃炉推進Cプロジェクト統括管理センター長

福島県（オブザーバ）：酒井主管

規制当局 原子力規制庁：山田審議官、持丸調整官

3. 結果概要

冒頭挨拶

- ◇本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝。
- ◇梅雨の時期も過ぎましたが、今年は雨による大きな事象も発生せず、1Fではこれまで取り組んできました汚染水タンクの堰や雨水タンクへの移送設備の設置、構内排水路付け替え等の各対策の効果が現れてきたものと思います。
- ◇午前中、実際に1Fを視察し、凍土壁の実施状況等を確認してまいりました。
- ◇引き続き暑い季節の中、1Fの現場では多くの作業員の方々によって地道な廃炉・汚染水対策が進められています。特に心配される熱中症について、昨年にも増して手厚い予防対策が講じられており発生件数が減少していると聞いています。安全第一がもっとも重要であることを関係者全員で再認識し、より一層注意を払って廃炉・汚染水対策を進めていきたいと思えます。
- ◇各対策の進捗状況ですが、陸側遮水壁については、引き続き凍土壁内外の水位差や地中温度の低下等が確認されています。本日は、第一段階の中で遮水効果がどのように進んでいるか、第二段階への移行に向けた検討状況等について報告を受けたいと思えます。
- ◇一方、使用済み燃料取り出しについては、カバー解体工事や遮へい工事など取り出しに向けた各工事が慎重に進められています。現在の進捗状況や課題、今後のスケジュール等について報告を受けたいと思えます。
- ◇最近の発生事象として、6月28日構内配電線2号線のトリップによる停電が発生しました。その原因究明と対策について、報告を受けたいと思えます。
- ◇また、技術戦略プランや凍土壁など廃炉・汚染水対策では、誤解を招くことないよう的確な情報発信を行うことが極めて重要です。この点は今一度再確認をしたいと思えます。
- ◇また、先日ございました石棺の件についても、地元の方々には心配を与えてしまったことは確かでございます。私からも、改めて修正指示を出しましたが、発信の仕方をしっかりの考えながら、住民の方々の立場にたって発信していければと思えます。
- ◇本日も活発な御意見、徹底した御議論をお願いします。

主な指摘事項

議題1 1-1

- 港湾内のセシウムの濃度が、雨量が高いときは濃度が高くなり、雨量が少ない時は濃度が低くなる傾向にある。しっかりと調査し、対応策を練っていただきたい。

議題3 資料1-3

- G6タンク周辺の滴下事象について、今後の対策として当該タンクは汚染水の受け入れを実施しないとあるが、対策はこれだけか。タンクの設置数の逼迫状況を鑑みると、フランジタンクも使わざるを得ない状況であり、当面使う予定のフランジタンクでのメンテナンスや点検強化が必要なのではないか。さらには、ストロンチウム処理水が入っているタンクについては、濃度が高いフランジタンクに関する当面利用に対する対策をしっかりとやるべき。
- 高い濃度の処理水を貯蔵しているフランジタンクは現在いくつあるのか。非常に濃度が高いフランジタンクの数が仮に少数であれば、パトロール等で事後的に事象を発見するのではなく、フランジ毎の年数等で管理し優先順位をつけて点検すべき。いくら科学的・物理的に問題がなくても、被災者の立場に立つと「漏れた」という事実が不安を煽ることになる。

議題6 1-6

- 廃炉・汚染水対策の説明をする際には、主体はあくまで県民であると認識して、わかりやすい説明を心がけてほしい。
- 東電において、昨日のミュオン測定について、8月には装置を撤去し、今後の対策は未定であるという回答をしていたが、県民にとっては今後の展望が見えないと不安になるので、今後の対策を聞きたい。
- 基盤整備の実施状況については、地道な作業であるが、きちんとやっていることを、県民に対しても伝えてほしい。

議題9 1-9

- 熱中症対策について、ルールと設備には問題ないと思うが、徹底してほしい。元請けの意識が低い場合には強化の呼びかけをしてほしい。現場で働く人たちの環境は日々変わっているので、しっかりと管理・指導を徹底してほしい。

議題10 資料2A

- 使用済み燃料の取り出しについては早期かつ安全に実施してほしい。1号機について、建屋カバーの取り外しが9月から行う予定とあるが、ダスト飛散の運用厳格化はしっかりと徹底してほしい。敷地境界についても、ダストモニタの誤作動等のトラブルが過去発生しているので、信頼性向上に努めてほしい。
- 4m 盤の地下水の流入は下がっているという記述もあるが、データに基づき科学的に説明できるようにしてほしい。

議題11 資料2B

- 地下水をコントロールし、汚染水を増やさないかがキーポイントであり、小さな隙間でも凍結はしっかりと終わらすよう努力してほしい。
- 凍土壁の内側の地下水の推移を分析してほしい。汚染水を増やさないようにするには、山側を凍結することが重要であり、かつ早く第2段階へ進むようにしてほしい。

(3)次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡。